

「新しい領域に！！」

～お願い！もどらないで！！あなたは奴隷ではない！！～

ヘブル 11:24～32

変化を嫌う私たち人間には戻ろうとする力が働きます。すべき事ができず、してはいけない事をしてしまいます。その力は半端ではありません。聖書に記されている出エジプトで、ヘブライ人がモーセに率いられて、エジプト新王国の支配から逃れて脱出した時、その後、彼らは40年もの間さまよい続けました。解放され願った事が叶ったにも関わらず言った言葉は「前の方がましだった。」でした。昔の方が良かった。奴隷の方が幸せだったと嘆いたのです。

■ モーセとファラオ

エジプトの王ファラオが当時奴隷となっていたイスラエル人が増えるのを好まず3歳までの子どもをすべて殺すように命じました。モーセの母親は、赤ん坊のモーセを救おうと彼を葦で編んだ籠に入れ川に流したのです。ちょうど川に遊びに来ていたファラオの娘がモーセを見つけ救いました。そして彼は王家の養子として育ちました。その後王子となったモーセは自らのルーツを知り、また同胞が苦しんでいる事を知ります。ある時に同胞を苦しめていた自分の部下であるエジプトの兵士を事故によって殺めてしまいます。彼は国から逃げて荒野で80年生き活することになります。燃える芝の前で自分の弱さや愚かささらけ出して神の前に出て祈った時にイスラエル人をエジプトから導き出す使命を受けたモーセは自らに自信はありませんでしたがエジプトへと戻っていきます。モーセはエジプトの王ファラオにイスラエル民族を解放するように言いますがファラオは聞く耳を持ちません。そこで神は十の災いを次々とエジプトに下しファラオを懲らしめました。エジプトに災いをもたらされるとファラオは災いを止めるのと引き換えにイスラエル民族の解放をモーセに約束します。しかしモーセたちが災いをおさめるとファラオは心を頑なにして毎回の約束は守られませんでした。そして最後の災いにより我が子を失ったファラオは屈服しイスラエル民族を解放することを認めました。そして海の前に立ったモーセたちをもう一度追いかけたファラオでしたが二つに割れた海に三百万人のしもべたちをのみ込まれ失ってしまいます。神様を見上げ進んで行ったモーセと、一度は良い決意をしてもなぜ、どうして、と理不尽なことに疑問を持ち何度も元に戻ってしまうファラオ。私たちはしてはいけない事、本来はこうあるべきだとわかってはいるのに目の前の現状が自らの人生に大きな問題だと思ってしまう。それ故にファラオはたくさんの物を失い最後には我が子まで失うのです。そこまできかないと私たちはわからないのです。戻ろうとする力は半端ではありません。私たちにとっての荒野の時間は『忍耐』です。それは亀のように「もうやだ！やらない！」と殻におさまっているのではなく自分の心とたたかって立ち上がり「もうやだ！でも行く！」と

いう姿です。

■ 二人の宇宙飛行士

人類で初めて月面着陸をしたユーレイ・ガガーリンはその時の感想をこう話しました。「空は非常に暗く、地球は青みがかっていた。」そしてアポロ15号飛行士ジム・アーンは確信して語りました。「宇宙飛行までは、私の信仰は人並み程度のものでした。それと同時に、神の存在に人並み程度の疑念も持っていました。しかし宇宙飛行によって、それらの懐疑は吹き飛びました。神がそこにいるということが如実に分かるのです。こんな精神的な内的変化に私自身も驚きました。」・・・「その臨場感は知的認識を媒体するのではなく、直接的な実感でした。私がそこにいて君がそこにいる。そんな感じでした。神に何を祈っても、神は無言です。それが当然であると私は考えていました。しかし、そのとき、確かに神が声を出して答えてくれるわけではないのですが、まるで超能力者同士のコミュニケーションのように、神がそこに在るのが分かり、パーソナルな関係の中で語り合ったのです。」・・・「姿が見えないことの方がおかしくて、私は振り返って神のすがたを探したほどでした。しかし神は超自然的にあまねく偏在しているのです。」

■ ①目を閉じて！！(目に見えぬ神の啓示)

私たちの視線はどこにあるのでしょうか？間違った方に向いているとしたら人生を無駄に使っているかもしれません。私たちはあまりにも見えるものに目を向け過ぎています。今がどんなに幸せか、人生を正しく生きれているのかを目を閉じて見なくてははいけません。見えないところに大切なメッセージが隠れています。

■ ②死に至るまで忠実！！(頑なになってはいけない！！)

私たちの中には いつも頑なさがあります。「頑な」はとても危険です。これはどんな状況でしょうか。

■ ③我慢ではなく忍耐！！(亀ではない！！)

私たちは頑なではなく「素直」になることです。我慢をやめ、比較をやめて信じて進むことが忍耐です。最後に申します。あなたがたはみな、心をひとつにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。(ペテロの手紙 第一3:8～9)」

(要約者:西崎 真由美)

(7月23日)